

01. 誘惑
02. 姫姫
03. 生きてく強さ
04. クロリアス
05. メドレー (シキナ～STREET LIFE
～Missing You～都忘れ～MIRROR)
06. BLACK MONEY
07. NEVER-ENDING LOVE (仮タイトル)
08. 軌跡の果て
09. つづれ織り
～so far and yet so close～
10. pure soul
11. メドレー (BE WITH YOU
～ここではない、どこかへ～とまとい
～SPECIAL THANKS～春を愛する人)
12. BRIGHTEN UP
13. 彼女の "Modern..."
14. 疾走れ! ミライ
15. SOUL LOVE
ENCORE
01. 悲願
02. HOWEVER
03. またここであいましょう
04. BEAUTIFUL DREAMER

30th Anniversary GLAY EXPO



LIVE REPORT

6/8 sun. 京セラドーム

GLAY

30周年 GRAND FINALE で 伝えた感謝と新たな約束

デビュー30周年記念として昨年から展開してきた【GLAY EXPO】を締め括るGRAND FINALEが京セラドームで開催された。今回、ドームではGLAY史上初となるセンターステージを設置。オープニングはメンバー4人それぞれのキャラで異なる場所から京セラドームに集結する映画的スケールの映像で惹きつける。ステージ上にメンバーが登場すると大歓声からシンガロングへ、すさまじいほどの熱気が湧きあがる『誘惑』からスタートした。場内から飛び交う熱い声援を受けて、「よくみんなの顔を見せてください。今回のドームツアーからみなさんはGLAYになりました!」「30年間、いつも一緒にいてくれてありがとうございました！」とTERU。その後に歌った『生きてく強

さ』ではアリーナ＆スタンドからの大合唱と共にドーム全体がひとつになる温かく幸せな光景に包まれた。

今回の公演では、「少しでも多くの曲を聞いてもらいたい」との思いからHISASHIのアレンジで5曲ずつ繋げたメドレーを前半と後半で展開。そのふたつのメドレーに挟まれた中盤のブロックでは、JIROとHISASHIのボーカルをフィーチャーした『BLACK MONEY』でエッジの効いたダークな世界観に引き込む。TAKUROはメンバーへの最大級のリスペクトを込めて、「これが俺の自慢のGLAYだ！」と雄叫びを上げる。観客への謝辞を述べて、「みなさんに永遠の愛を込めて送ります」と『NEVER-ENDING LOVE』(仮タイトル)をアコースティックギターの弾き語りで聴かせてくれた。その歌は30年の歩みで培ってきたGLAYとファンたちの強い絆を歌っているように感じた。

また、FM802の番組【CHILLIN' Sunday】とつないでDJ落合健太郎氏とのクロストークが展開。その後のメドレーもラジオで生放送され、会場外のファンやリスナーにも熱気を届けた。そして、『BRIGHTEN UP』から疾走感満点のラストスパート。一斉にクラップが広がり、拳を突き上

げる観客と共に最大のボルテージで本編ラストの『SOUL LOVE』まで熱くエネルギッシュに畳み掛けていった。

この日はアンコールもスペシャル感満載だった。当日はTERUのバースデーと重なっていたため、特大ケーキのプレゼントがあり、次に改めてメンバー各々の言葉でファンへの感謝の思いを伝える。TAKUROはこれまでに実現してきた数々の夢のコラボを振り返り、その中から東京ドームのGRAND FINALEで魅せたL'Arc-en-Cielのhydeとの共演シーンがスクリーンで再現された。これには場内からどよめきが起こるほど大いに沸かせていた。さらに、小田和正氏によるお祝いコメントVTRも映し出されて、同氏とのコラボ曲『悲願』をTERUの深みを帯びた歌唱で披露。場内をしっかりと浸らせた後に、再びサビをみんなが大合唱する『HOWEVER』。そして、TERU自身が「この歌、本当に歌いたいから」と切望してセトリに組み込まれたという『またここであいましょう』では華やかなキーボードが奏でられ多幸感に包まれる。その後、メンバー4人が二手に分かれてフロートに搭乗し、観客が歌う『SAY YOUR DREAM』が響き渡る中、アリーナ外周をゆっくりとまわっていた。そして、TERUのパワフルな掛け声で歌い出した『BEAUTIFUL DREAMER』で大団円となった。

クロージング映像としてスクリーンに映し出されていたのはGLAY30年の軌跡と「永遠にGLAYをやりたいです」の文字。ライブ中もメンバーが端々で口にしていたのは、この先の40、50周年を見据えた言葉と次の夢に向かう姿勢。「みなさんがGLAYと共に見たい夢があったら教えてください。僕はそれに取り組んでいく」と言っていたTAKURO。TERUは「止まらないGLAYではなく、止まらないGLAYをみんなと一緒に楽しんで行きましょう！」と声をかけていた。言葉にしきれない思いは歌に託し、30年分の感謝と新たな約束を伝えた約3時間の濃密なグランドフィナーレだった。

